

第 69 回日本歯科理工学会学術講演会報告

標記の学術講演会は、日本歯科大学生命歯学部歯科理工学講座教授宮坂平先生を大会長として、平成 29 年 4 月 15 日、16 日に同大学の創立 100 周年記念館 8 階にある富士見ホールを主会場として開催された。久しぶりの大学での開催であり、講演会の運営面では大変ご苦労されたと思われ、大会長の宮坂平先生をはじめ関係された皆様に感謝申し上げたい。

今回の学術講演会には、研究奨励賞への応募発表が 3 題、一般口頭発表が 19 題、ポスター発表が 74 題であった。この他に、特別講演および特別セミナーやランチョンセミナーが開催された。また、歯科材料器械に関する企業展示もおこなわれた。研究奨励賞に応募された研究は、どれも研究手法が革新的で今後の進展が期待できる発表であった。初日の一般口頭発表は、歯科用セラミックス材料の物性評価や表面処理と表面改質およびアパタイトに関する発表であった。午後からは、定時社員総会・会員総会が開催された。また、平成 29 年度授与式もおこなわれた。その後、特別講演および特別セミナーとして、日本歯科大学生命歯学部生物学教室教授 南雲保先生による「微細な自然芸術—珪藻の世界—」の講演がおこなわれた。珪藻は細胞の周りに殻を作り、それに微細で精巧に刻まれた文様をもっている。ミクロンオーダーの文様が映し出されるとその美しさに引き寄せられ感動して見入ってしまった。また、珪藻は地球上の生命を支えていることに驚かされた。

ポスター発表会場は、階下の 7 階であり、十分な広さがあり、ポスター間の移動は容易で、発表者と討論しや

すかった。初日のポスター発表では、細胞と生体材料、溶出、リン酸カルシウムや金属材料などに関するテーマであった。英文のポスター発表が 13 題あり、国際学会のような討論風景もみられた。夕方には降雨が予想されたが、幸運にも晴れて、大学近隣のホテルにて懇親会が開催された。理事長の河合達志先生や来賓の先生方のご挨拶の後、名誉会員の小田豊先生による乾杯のご発声後、歓談となった。都内のホテルグルメランキングで第二位となったとのことで、料理も美味しく、アルコールを口にしながら研究の話題や情報交換等で盛会であった。

第二日の一般口頭発表は、チタン、生体組織とセメント等に関するテーマであった。お昼には、トクヤマデンタルの小川康浩氏による「トクヤマデンタルの接着システム」と題してランチョンセミナーが開催された。このセミナーは、ほぼ毎回おこなわれており、アドバイザー会員には好評のようだった。二日目のポスター発表は、器材・技術、生体材料、接着および臨床応用等のテーマであった。口頭発表もポスター発表もプレゼンテーションの図や表および絵等が美しく、簡潔にまとめられており、発表の技法はすばらしかった。

今回の学会に始めて参加した大学院生等が、学会発表や討論を見聞しどのような感想をもったのであろうか。難しい研究や討論をしていると思ったかも知れないが、最近の研究動向と研究成果を知ることができ、さらに科学をする志が得られたなら有意義な二日間であったと思う。ただ大学院生をはじめとした若い研究者（会員）には、歯科材料学や歯科器械の研究という立場から、基礎的な実験手法などのテーマについて講演するいわゆる教育講演が必要であろうと思った。

大川成剛

(新潟大学大学院生体組織再生工学分野)

